



# 木曾川下流自然観察会

<http://owari.eco.cocan.jp/kisogawa.html>

日時 2023年11月12日(日) 9:30~12:00(曇り)

参加者 一般:3名

指導員:5名

## テーマ 紅葉・黄葉&ひつつき虫

色づき始めた木々の葉を眺めながら、ひつつき虫を探して回りました。今年は猛暑と少雨のせい、桜などの葉は既に散って、その他の樹種も色づきは鮮やかさに欠けています。

紅葉はアントシアニン、黄葉はカロチノイドの色が発現すると言われますが、同じ木でも赤と黄色の両方が見られるなど、葉の中で複雑な反応が起こっているようです。

色の変化は、葉の付け根に離層が形成されて進むので、地面付近より気温が低いと考えられる枝先の葉から起こっているものが多いように見受けられます。

ひつつき虫を探しましたが、公園や堤防では草刈りが行われていて、背丈の高い草はありません。川原におりたところで、コセンダングサの実を見つけました。実の先端の2~3本の突起をルーペで拡大してみると、付着力のもとになる逆向きの棘が見えます。同じ仲間のアメリカセンダングサを探しましたが、観察コースでは見つけれませんでした。以前と比べ個体数が減っているようです。

大野極楽寺公園のフェンスの近くで、イノコヅチ2種(ヒナタ&ヒカゲ)が生えていました。見分けのポイントとなる茎の毛の生え具合や苞基部の付属体の大きさを確認しました。

もくもくパラダイスでは、ヌスビトハギ類3種(ヌスビトハギ、アレチヌスビトハギ、フジカンゾウ)の実の大きさや葉の形状を比べてみる事ができました。

その他、植物では孢子葉を伸ばしたフユノハナワラビ、返り咲きのスミレの花、ほぼ満開のシロダモの花、昆虫では成虫越冬のキタテハ、ムラサキシジミや幼虫越冬のゴマダラチョウの幼虫などが観察できました。

そろそろ冬鳥が渡って来る時期ですが、ジョウビタキは姿を見せたものの、ツグミやアトリなどはまだ見られませんでした。来月になれば、冬鳥の種類も個体数も増えていることでしょう。(報告:齋竹)



枝先から色づき始めたトウカエデ  
紅葉と黄葉が混在している感じ

### <その他観察できたもの>

花:キダチコンギク、セイタカアワダチソウ、セイヨウタンポポ、ブタナ、キツネノマゴ、アレチハナガサ、カワラサイコ、ナガバオモダカ

実:キンミズヒキ、アケビ、マテバシイ、アキグミ

鳥:トビ、ヒヨドリ、ムクドリ、モズ、キジバト、スズメ、ハシブトガラス、シジュウカラ、(声)、メジロ(声)、ウグイス(声)

虫:キタキチョウ、モンシロチョウ、ツマグロヒョウモン、ベニシジミ、ヤマトシジミ、ウラナミシジミ、マコダテアカネ、オオアオイトトンボ、外来アミガサハゴロモ



コセンダングサの実



ヌスビトハギ類3種の実の比較



かえり咲きのスミレ



まだ緑色のゴマダラチョウ幼虫